

安曇野市男女共同参画推進審議会 会議概要

1	会議名	第3回 安曇野市男女共同参画推進審議会（第5期）
2	日時	平成28年12月20日 午後1時30分から午後3時30分まで
3	会場	安曇野市役所 3階 共用会議室305
4	出席者	大日向委員、松村委員、清原委員、伊藤委員、二木委員、増田委員 小林（栄）委員、小林（知）委員、小林（久）委員、秋山委員、青木委員、 降旗委員、宮下委員、湯澤委員 （欠席委員）田中委員、望月委員、日比野委員、三澤委員、田村委員
5	担当課出席者	藤松部長、市川課長、高山課長補佐、山口係長
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 1人
8	会議概要作成年月日	平成29年1月13日

協 議 事 項 等

【会議事項】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項
 - (1) 第3次安曇野市男女共同参画計画策定に向けた市民アンケートについて
 - (2) 第2次安曇野市男女共同参画計画の進捗状況検証の取り組みについて
 - (3) その他
- 4 その他
- 5 閉会

【会議概要】

- 3 協議事項
 - (1) 第3次安曇野市男女共同参画計画策定に向けた市民アンケートについて

【要旨・主な意見】

事務局：(資料を参照しながら説明) 市民アンケートは内容を減らした。集計に反映されることがあまりないことから、「住まいと地域」、「結婚しているか」を削除、「DV、セクハラ、パワハラ」は、女性相談室の調査も行っているため削除。社会全般において「男女平等か」を問い7の前に持ってきた。7にて具体的に記載していただくことを願っている。順序を変えた箇所もある。男性に聞くことで「地域で、女性は役に就いているか」を削除。「地域活動や共同作業」も内容の主旨が前段の設問と重複するため削除。外国人に関する質問は、前回とほぼ同じ。設問の内容にまとまりがあるように順番を変更した。アンケートに添付する文書についてはアンケート用紙のみお送りするのではなく、アンケートの目的や計画の骨子、意見が必要な理由を記載したお願いする文書を作成した。庁内推進部会でも、各分野の係長によりアンケート内容を検討している。

会 長：質問や意見をお願いしたい。

委 員：前回も申しあげたが、設問が多いと感じる。27問から22問に減らした努力は認めるが、問4の男女共同参画に関するいくつかの用語の理解度についての設問と、問5「DV」「セ

クハラ」「パワハラ」について、「見聞きしたことがあるか」、「見たことがあるか」は重複しているのではないかと疑問に感じる。問4に集約できるのではないかと思う。細かいことを言うようだが、3ページの間8の選択肢3にある「子供のころから教育すること」は、「ども」はひらがなを使うべきかと思う。前回の計画「ウィズ安曇野」でも、「ども」はひらがなを使っていた。

委員：問10の女性に「出産するときは仕事をどうしたいか」という設問と、問11の男性に「あなたの家族が出産するときは仕事をどうしてほしいか」という設問において、何を選んだらどうであったかと過去に選択した方の今の考えがわかるものがほしい。例えば、仕事を辞めてしまったが、今思うと続けていればよかったなどの意見がありそう。また、どういうことがあれば辞めずに済んだのかななどを聞き出せる質問をしてみてもよい。

会長：その点は大事なことだと思う。

委員：問7「社会全般において男女平等か」という設問に1「平等ではない」と答えた方にお聞きすることで、7番目に社会通念とあるが、これは学校とか家庭など、他の部分にも重複してくるが、敢えて聞いているのはなぜか。問い4、5のそれぞれの用語を知っているか否か、見聞きしたか否かということ、については、敢えて設問を分ける必要があるのか。また、アンケート全体について、設問の仕方については、総括的な質問、地域に関わることと混同しているが、その順序については、まとめる段階を考えると区分する必要があるのではないか。

会長：事務局いかがか。

事務局：問4の男女共同参画に関わる各用語の理解度は、第2次計画策定時の設問で、その時代の風潮を把握するためである。国、県もアンケートを実施しているが、国、県、市の違いを調べる意味もある。DVを「見たことあるか」という設問は、実際身の回りで起きていることかを知りたい。設問が分れている主旨を理解できるように問い方を工夫したい。問い7「社会全般において男女平等か」は、それぞれの選択肢で、慣行、しきたりが含まれる。それぞれの場面では必要ないというご意見をいただいたが、この部分も、統一的な比較の項目になっている。県でも同じ質問をしている。子どもの「ども」は、市でもひらがなを使っている。修正する。

会長：問5「DV」「セクハラ」「パワハラ」では、実際に身近にあると感じているか。問4は概念を理解しているかという違いがあるので、設問を区別する点の理解ができるようお願いする。社会通念については全場面にあるというご意見に対していかがか。

委員：自分は、きっと答える段階で迷ってしまう。社会通念はすべてに通じている。

会長：社会通念やしきたりが不平等の原因であるが、例えば学校では、教育内容が不平等であるのか、職員間の待遇の差があることが不平等なのかということになると思うのだが。

委員：「結婚しているか」という設問は、していない人もいるとのことで、無くなったが、「結婚について」尋ねることも必要ではないか。若い世代は、「結婚しない」人も増えてきている。この対応策について考えていかなければと思う。また、夫婦別姓や、仕事の上では旧姓のまま通している方がよいなど、色々な意見をくみ取ることができる。「安曇野市で女性が活躍できそうな分野はどんなものがありますか」という設問を加えることで政治・経済・福祉など分野を市独自の参考としてとらえることができると思う。

委員：問20は「次の中からあてはまるものを全て選んで」ということになっているが、いくつ

選べという制約が無い。また、前回のアンケートでは問 21 は 3 つ選ぶ設問だったが、今回は 1 つになっているがなぜか。

委員：実際このアンケート内容に答えてみたが、学校教育について答えられなかった。的確な表現があればいいと思う。「教育内容」か、教員の待遇面でのことか。

委員：学校教育では、子どもは男女で区別していない。教育内容については、結果として男女共同参画が進んでいると思う。小学校の現場は女の先生が多い。受け取り手にとっては、捉え方が難しい。

会長：確かに何を聞きたいのか解釈が難しい。他の方はいかがか。

委員：学校教育に関しては、私も同じ意見です。教育内容は、男女の区別がなくなっている。過去との比較であれば、同じ設問を残していてもよいと思う。果たして、今どうなのか。0 だったとしても残してよいと思う。

委員：なぜ、学校だけ「教育」がついているのか。「教育」という内容を聞きたいためか。

委員：過去のものと比較することが計画 15 ページにある。そういった意味があるので残されていると解釈した。

委員：社会通念、慣行、しきたりは、いままで男女共同参画の課題としてずっと残っている。各分野で、「社会通念が残っているのはどの分野ですか。」としてもらうといいと思う。

委員：問 10 の「出産するとき、仕事をどうしたいか」という設問と、問 11 の男性を対象にした質問で「あなたの家族が出産するときには、仕事をどうしてほしいか」、問 12 「女性が働くときに障害となるものは何か」の問いについて、現実的には出産して仕事ができなくなり、パートになってしまう。個人としてどうしたいか、という希望を聞いてもできない可能性の方が大きいため、現実とかけ離れている。戻れるのは公務員ぐらい。一般の会社では、職場を離れると戻れない方がほとんどであるのが現状。

委員：「どうしたいか」と聞いているのであるから、それでいいのではないかと思う。希望はこうだけど実際はこうだ。ということではないか。

委員：問 19 の「外国籍住民とどう交流をしたいか」という問いで、外国籍の人に関して具体的に何をしたいかという例を挙げた項目があればよい。

委員：アンケートと具体例は別物。アンケートの結果、この計画の中に追加していくのが望ましいと思う。

委員：「結婚しない」という選択をしている人たちがなぜそう考えているかという背景を知りたい。結果を分析して、「結婚しない」という考え方の人にも「結婚」を視野に入れてもらうための対策がアンケートの目的の一助を担うのではと思う。

会長：結婚は、男女共同参画とは無縁ではないが、結婚観にまで踏み込むものか迷った上で聞かなかったのか、事務局の考えはいかがか。

事務局：結婚観は、時代の流れによって変わってきている。そのことについて尋ねるのはどうかと思った。結婚の形も違ってきている。設問を減らすなか、そこまで踏み込むことがアンケートの主旨ではないので省略させていただいた。

委員：要するに、結婚観について聞きたいということで、結婚しているか否かについて表面的に問うのではないのなら入れてよいかと思う。

会長：男女共同参画のアンケートに結婚観にまで手をのばしたものは見たことがない。結婚観については複雑で、集計したところでどうなるものなのか。

委員：だから、その背景において結婚後の生活に不安がある。男女共同でやっていかなければ家計もまわらない。出産等、いくつか関係することがある。女性が活躍できる社会のためには、結婚というものがネックになってしまってはならないと思う。その点について私は聞きたいと思う。

委員：昔は男性が働き、女性は家庭に入るというスタイルが「幸せ」だったが、今は、女性にとっての「幸せ」が変わってきていて、女性も働いて経済力を持つようになった。必ずしも結婚が「幸せ」という形ではない。

委員：20代の若者と会話をすると、結婚したいが、出会いがないという人が多い。出会いを作るという方向づけができればと思う

会長：アンケートとしては、少々無理があるのではないか、いかがか。

委員：結婚については、また違う分野で聞いていくべきものと考えます。

委員：過去と比較すべき設問と新たに聞く質問で、過去と比較すべき質問は、そのまま言葉を変える必要はない。ただ、過去のなかで3つ選ぶものを1つ選ぶというものは、3つのままがよいのでは。

事務局：過去の分析結果では3項目選択すると差異が出ず、結果や傾向がつかみにくくなっている。家事・育児・介護が高く他が低いままという傾向があるため、今回ははっきりとした傾向を把握するために1つに絞り込んだ。

会長：前回のアンケート結果も、突出したものがわかりにくくなってしまい、比較に難しいということ。

委員：そうであれば、「特に重要な」という表現にしてほしい。

委員：年齢別データはないか。

会長：年齢は関係なく、無作為と認識しているが。

委員：返答した年齢にも偏りがありそう。返答者の年齢データがわかればありがたい

事務局：第1回審議会資料の前回アンケート集計では、回答者が一番多い年齢は60、70代が40%。30、40代だと合計で26%くらい。20代未満だと、23名。というように偏りがある。記述できる設問の中に、結婚観や平等についての意見や考え方が出てくればと思っている。

事務局：(事業所向けアンケートの説明) 専門的な言葉、最近できた言葉等には、注釈を設けた。「育ボス、あったかボス」については、管理職の皆さん向けに対応していく姿勢を示したものであり、市も1月をもって宣言していく。背景は、本年度になって、県も宣言をし、県下の市町村においても取り組み始めていることを受けてのもの。アンケートは、市内200の企業に向けて実施するが、ワークライフバランス等に加え、昨年制定された女性活躍推進法、「育ボス、あったかボス」に関する設問で、前回お送りした内容と近年注目した項目を加えた構成である。

委員：年度については、「平成〇年度現在」と年度をはっきりさせるべき。内容によっては、混乱しないか。

会長：事業所は会計年度が4月～翌年3月の所もあれば、年を単位にする所もあるかと思われるので回答に迷わないようにすべきである。

委員：「年度」というものにしておけば、決算の時期がわかる。その方がいいのでは。

事務局：商工会に相談し、年度等の聞き方を決めて明記する。

委員：年度は最初に記載してしまえば、1つ1つに記載せずともよいのでは。また、※の記載

のあるなしが目立つので統一するべき。注釈の箇所のページを記載した方が、読み手にとって親切だと思う。

委員：問4の男女共同参画についての各種用語理解や、問5「DV」「セクハラ」「パワハラ」について、身近なところで「行われている」「いない」という選択肢だということだが、「いない」を選んだ際は今後理解や防止のためにどうとりくみたいかということも知りたい。

会長：次に外国籍の人たち向けのアンケートについて事務局から説明をうけたい。

事務局：29年度に入り実施する。外国籍の方からはただ配布して返ってくる見込みが低いと思われる。いくつかの外国語に翻訳したアンケートを、支援団体の方にご協力いただき、関係者や知り合い等に声掛けしていただき、回収したい。外国籍の方の定住歴ごとの悩みを把握できればいいと思っている。答えやすいよう、問いを16項目に減らした。

委員：性別を聞く項目で、性別と年齢を聞いているので重複している。

会長：今後のスケジュールについて事務局から説明をお願いする。

事務局：1月6日までに、本日ご審議いただいた項目に追加のご意見があれば直接当課へ電話等でいただきたい。1月中旬に市民向けアンケートを発送したい。対象は、18歳以上3000人を無作為で抽出。庁内推進本部の部会でも同様にアンケートの内容への意見を聞いている。事業所アンケートは商工会と相談し、平成28年4月から女性活躍推進法が義務付けられて1年を迎える2月から3月を目安に200社に実施する予定。

会長：1月6日までにご意見のある方は出していただくよう協力願いたい。

(2)第2次安曇野市男女共同参画計画の進捗状況検証の取り組みについて

【要旨・主な意見】

会長：続いて(2)の第2次安曇野市男女共同参画計画の進捗状況検証の取り組みについて事務局より説明を。

事務局：検証結果が解り易いように表を変更した。庁内部会に各項目の報告書の記載について依頼している。まとめ次第提出する。ご意見を踏まえて次期計画の内容の加除を行う。第2次計画の進捗状況を検証していく。第3次計画策定に向けたアンケートの内容についても並行し進めていく。第2次計画の検証結果は4月の審議会に報告を予定している。

委員：企業向けのアンケートについて、集約することが統一的な年度になればという意見を申しましたが、企業によってはバラバラなので、年度の件に意見について撤回したい。

委員：アンケートは、いただいた方が意味を理解できるような書き方をし、途中で止めてしまわないようにするべき。

会長：複雑な内容のアンケートだと、確かに回答に困って手を止めてしまいますね。その点については、事務局の読み手への配慮をお願いしたい。

委員：資料3について「現状と課題」の空白は何か。

事務局：今後、庁内推進部会を開き、決定した形を最終的に図示する。

委員：アンケートの協力のお願いが良かった。アンケートの意図が明確にわかるため、返ってこなかったとしても、送付者への啓発に繋がると感じた。

会長：それでは、議事をおわります。

(3) その他

委員：「湧愛」について、委員から記事となっている座談会に参加していただき協力いただいた。
学習資料として活用願いたい。